



2015-03 No.67



より良い平和教育と平和行政を目指して
～展示物の選び方と生かされ方にスポットを当てて～



平和博物館での展示において、戦争の「被害展示」と「加害展示」、そして「平和創造」に関する展示をどのように組み合わせることが平和について深く考えることに役立つでしょうか。例えそのような「平和博物館のあり方」について、河上准教授は憲法

学や歴史学や社会学などの観点などから、さまざまな研究者と連携しながら研究をしています。また、平和教育の「マンネリ化」についても関心を向けています。最近の平和教育を受けた子どもたちの中には、戦争の悲惨さについて話だけを聞くと、「戦争下の日本ではなく平和な今の日本に生まれて良かった」との感想を漏らすこともあるとされます。河上准教授は、「それでは恒久平和を考える上で何も解決しない」として、根本的な問題として「なぜ戦争が起きるのか」「なぜ核兵器は無くならないのか」、そして「それらと無関心にはどうしたものか」といったことを自分で考えることに役立つ教育とはどのようなものか、そのための平和博物館の役割についても研究をしています。

この研究には、得られた成果を題材に、専門家を呼んでシンポジウムを開催するなどして、教育関係者や行政関係者、市民、そしてこれからの時代を担う学生などに、より良い平和教育や平和行政への理解を促すことも含まれています。そして、この研究を通じて得られた成果が、今後、平和教育や平和博物館の展示に活用されることを目指しています。

(取材:情報科学部3年・木村優也さん)

組み合わせることで新しい可能性が!
～「デザイン」するまでの裏側～



私には最初、「デザインを研究する」ということがピンときませんでした。そんな私に芸術学部の中村先生は、「デザイン」というと、例えばパソコンに向かってひたすら制作するという印象があるかもしれませんが、実際にはそれまでに、他の事例について調べてみたり、現場に向いてみたりしながら、アイデアを考えたりの繰り返しとなります。その過程も大切なんです」と教えてくれました。

今回の研究では、広島市立図書館から、「広島市立大学の学生に、共通貸出利用券の新しいデザインを制作してほしい」との依頼を受け、中村先生は研究室の学生たちとデザイン制作を行いました。デザイン案が採用された川口礼乃さん(芸術学部デザイン工芸学科4年)を中心に、学生たちは図書館からの要望の一つである「ワクワクする図書館」というイメージに合うデザインにするために、他の図書館の利用券について調べたり、実際に図書館に行ってみたり、図書館職員にインタビューを行ったりしました。そして、実際にカウンターでの受け渡しも想定し、デザインの色や配置を考え、利用者にも図書館職員にも使いやすいデザインにするまで、担当者や打ち合わせを重ね、お互いが納得のいくデザインを完成させました。その努力と時間は、私の想像をはるかに超えています。

今回、「デザイン」と図書館を組み合わせることで、図書館のイメージがより明るく、そして「本を借りるだけ」ではないと発信することができたのではないのでしょうか。

(取材:情報科学部2年・中野美登里さん)

もっと笑顔で話せるように
～壁を打ち破るためのツール～



聴覚障がい者の方がコミュニケーションをとる際、専用の機械に表示されるランプを見て自分の声量を確認することがあります。しかし、機械のランプを凝視しなければならず、人間がコミュニケーションをとる際に一番重要視されている「相手の表情に注意を向けていること」が難しくなるという欠点があります。

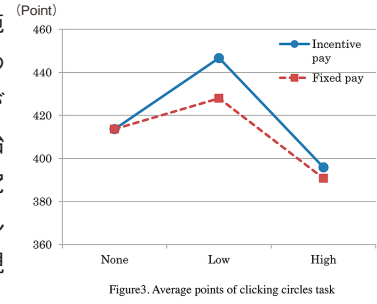
また、「自分は適切な声量で話しているのか」「ちゃんと単語を発音できているのか」が自分では認識しづらく、コミュニケーションをとること自体にコンプレックスを感じていらっしゃる方が多いのが現状です。

そこで石光先生のサウンドデザイン研究室では、発声時の皮膚や骨の振動を拾うことのできる「骨伝導マイク」で得た情報を元に、「モーターを搭載した指輪型の装置」を振動させることによって、自分自身の発音や声量を振動の強さやパターンで聴覚障がい者の方に知らせるといったシステムを開発しています。このシステムが完成すれば、聴覚障がい者の方は従来のように機械の表示を見続けなくてよくなります。そして相手の表情をじっくり見ることができるようになります。その努力と時間は、私の想像をはるかに超えています。

「コミュニケーションに対して聴覚障がい者の方が感じている壁が、少しでも打ち破れるようなシステムを作りたい」とそんな先生や学生の願いを乗せて、開発が続いています。

(取材:国際学部1年・繁本美歩さん)

境界をさがせ!
～お金のなか、ボランティアなのか?～



「市場規範が、社会規範か、その境目になる線を見つけたい」。グラフを指しながら、聞き慣れない言葉で始まったインタビューは、研究の最終地点を示していました。「市場規範」と「社会規範」というのは、ざっくりと

言うと、前者がお金を必要とする取引、後者がお金を必要としない、ボランティアのような取引のことです。これらの規範には、基本的には両立することができず、また分野によって向き不向きが分かれるなどの法則があります。例えば「献血」。今でこそ無償で血液を提供するという社会規範として成り立っていますが、かつては売血といって、有償で提供する市場規範の形態をとっていたこともありました。当時は、血液を大量に集めるのは血液をお金で買う市場規範のほうが向いていると考えられていたのです。しかし予想とは反対に、質の良い血液が集まりにくく、売血という制度は機能しませんでした。厄介なことに、「どちらの規範が優れているのか」ということは、取引の「もの」によって変わっていくのです。「献血」の例から、社会規範が優れている、と仮説を立てても、すぐにその反例が出てきてしまい、社会がうまく回らなくなってしまふことがあります。高橋准教授は、さまざまな経済実験を行い、グラフ化した実験数値から、その変曲点、つまり「規範の分かれ道」を発見するというアプローチで研究をしているそうです。

(取材:情報科学部1年・舟山理さん)

学生広報サポーターによる「わかりやすい」研究紹介

広島市立大学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や各種外部資金を毎年積極的に活用して、先駆的な研究を行っています。その中から4つの研究について学生が取材をするという企画を昨年度実施したところ、好評をいただきました。そこで、今回も学生が、しかもあえて「他学部」の学生が取材をすることで、その研究内容をより「わかりやすい」言葉で紹介してもらいました。

1 Pick Up

「社会規範と市場規範の境界に関する研究:経済実験によるアプローチ」

研究代表者:国際学部准教授 高橋広雅先生

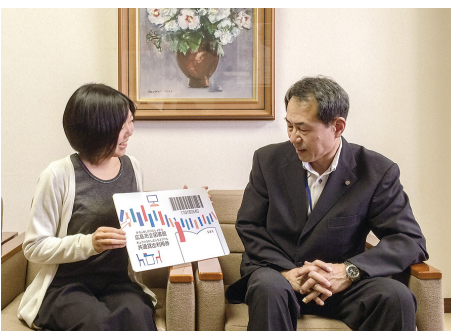


骨伝導マイク

2 Pick Up

「聴覚障がい者の発声支援のための振動フィードバックシステムの開発」

研究代表者:情報科学研究科教授・石光俊介先生



公共図書館貸出利用券デザイン受領式

3 Pick Up

「公共図書館貸出利用券デザイン制作を通じたビジュアルデザインの研究」

研究代表者:芸術学部講師・中村圭先生

4 Pick Up

「歴史・平和教育と平和博物館論の課題—「歴史・平和教育プログラム」調査を中心に—」

研究代表者:広島平和研究所准教授・河上暁弘先生

外部資金等活用状況(2015年度)

本学の教員が外部資金等を活用している研究例を紹介します。

1. 科学研究費補助金 73件 95,300千円

Table with 4 columns: 研究代表者(所属・職名・氏名), 研究課題名, (A)基礎研究(B)9件, 交付決定額

(イ)基礎研究(C)45件

Table with 4 columns: 研究代表者(所属・職名・氏名), 研究課題名, (イ)基礎研究(C)45件, 交付決定額

Table with 4 columns: 国際学部, 准教授, 大場 静枝, フランスにおけるプラトニーの再読文学の系譜—「パルダス・プレイ」を中心として

Table with 4 columns: 情報科学研究科, 准教授, 小暮 貴弘, 家庭用水道を主力とする水圧人工駆動動力パワーアシストの開発

Table with 4 columns: (ウ)挑戦的萌芽研究 8件, 研究代表者(所属・職名・氏名), 研究課題名, (単位:千円) 交付決定額

(エ)若手研究(B)9件

Table with 4 columns: 研究代表者(所属・職名・氏名), 研究課題名, (単位:千円) 交付決定額

Table with 4 columns: (オ)新学術領域研究 1件, 研究代表者(所属・職名・氏名), 研究課題名, (単位:千円) 交付決定額

(カ)研究活動スタート支援 1件

Table with 4 columns: 研究代表者(所属・職名・氏名), 研究課題名, (単位:千円) 交付決定額

2. 受託研究(10月末時点) 17件 42,167千円

Table with 4 columns: 担当教員(所属・職名・氏名), 研究課題名, 契約額

Table with 4 columns: 芸術学部, 教授, 南 昌伸, 「安の花田植」のロゴデザイン及び飾り物の造形研究

3. 共同研究(10月末時点) 9件 5,107千円

Table with 4 columns: 担当教員(所属・職名・氏名), 研究課題名, 契約額

〈表紙〉キッズキャンパス2015 旧市民球場跡地上空から撮影



丁寧に一人ひとりを大事に 社会との関わりの中で 学生を育てます

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号 TEL:082-830-1500(代) FAX:082-830-1656 http://www.hiroshima-cu.ac.jp

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

文化のプラットフォームとしての「お茶」を伝えたい

2015年8月15日(土)、広島市被爆70周年記念事業として、「上田宗箇流平和記念公園茶会」が平和記念公園において開催されました。その実行委員長・総合ディレクターを務めた長野佳嗣さんにお話を伺いました。

一**実行委員長・総合ディレクターになった経緯について教えてください。**

上田宗箇流でお茶を習っているのですが、お茶の世界というのは、「創造的な場」であり、日本文化の書、焼物、花、漆芸、金工などが集まる「文化のプラットフォーム」なんです。僕は日頃から表現活動を行っているので、とても興味が湧いて自分でも一度茶会を催したいなと思っていました。そんな時、広島市が被爆70周年記念事業として文化芸術枠を設けていることを知り、その内容を見てみると、広島伝統的な文化を取り上げた企画が一つもないことに驚いたんです。これはぜひ、広島市の伝統的な文化や工芸を織り交ぜたこれまでにない茶会を開催しよう決めました。実行委員会を立ち上げて、企画書を作り、上田宗箇流、広島市立大学、広島市に協力をお願いするところからのスタートでした。実行委員長として全体を統括しつつ、今回は総合ディレクターとして、茶会で使用する道具から、人選、演出、会話のテーマといった細部まで、僕がディレクションしています。

一さまざまな「広島」を感じられるように工夫したそうです。



今回茶室や主要な道具類はすべてこの茶会のために新たに作りました。通常、茶の道具を選ぶときには、「季節感」を大切にしつつ、道具の持つ「歴史的背景」だとか「どういう作家が作ったのか」などが基準となることが多いです。ただ、そういう道具はさまざまな専門的な知識がないと理解できないことが多いですね。ですからこの茶会では、「広島史や文化」が、予備知識がなくても理解できるよう工夫されています。例えば、現在の広島市で人が初めて住んだといわれている「比治山」の土を使用した土器茶碗を制作してもらったり、抹茶を入れる茶碗を広島市の伝統工芸である銅鑊の技術で造ってもらったり(※1)しました。これは、僕が制作の段階からアイデアを考え、作家の方と相談しながら、デザインを決めていったものです。このように、使用する道具類はシンプルで明快なストーリーを持つように制作しています。

一広島市長をはじめ、著名な建築家やカーデザイナーが参加する「茶会」となりましたね。

茶室は四畳半のため、おもてなしをする家元を含めて4名しか入れません。3名を選ぶ上で、市長には「広島市民の代表」として、ぜひ参加していただきたいと当初から考えていました。また、一人は「広島から世界へものづくりを発信している方」としてマツダのカーデザイナーである前田育男さん(※2)、もう一人は「都市的な大きな視点で広島を見ることができる人」として世界で活躍する建築家の隈研吾さん(※3)を招待しました。隈さんと面識がなかったんですが、メールを送ったところ快諾していただきました。コンセプトに共感していたいだいたんだと思っています。

一こだわった点について教えてください。
まず、都市の中心部を露地(茶庭)に見立てるということはいこれまでにない新しい提案です。また茶会の形式は大きく二つあり、一つは四畳半の



薄暗い中で厳肅な雰囲気で行われる「private」なもの。もう一つは、屋外など広い空間で大人数が参加する「public」なものです。今回は、その相反する二つを一体化し、双方の魅力を両立させるというテーマに挑みました。そこで、強力な照明を用いて、四畳半の四隅に光の柱を演出することで、日の出までの時間を「private」な空間としました。茶室の中は周囲よりも明るいため、中に入ると周りの様子が見えづらく、本当に四畳半の中のような感覚になります。それが、日の出と共に周囲が明るく見えてくる。そうすると茶会の後半は、茶室の中とその周りに懸掛ける参加者200名が一体感を感じられるようになります。つまり「public」な空間と「private」な空間が時間と共に交錯しながら変化していく。そういった仕掛けを準備しました。

一市長たちは茶室でどのような話をされていたのですか？

広島は復興は、世界的に見ても類を見ない復興を遂げているが、それは経済面だけではなく、広島に「文化意識」が根付いていたからではないかといったことを話されていました。

一やってよかったなと思った点は？

新しい試みが多かったのですが、伝統的な茶会に親んでいる人の反応は心配だったのですが、皆さん喜んでいただき、自分の思いが伝わったことに安心しました。また、平和記念公園という広島市の最も重要な場所で広島史や文化を背負った上田宗箇流の茶会が開催できたことは、これからの広島市の文化の復興、発展においてとても意義あることだったと思います。

一広島市立大学で学んだことで、今回に生かされたことはありますか？
一番は、物事に対する考え方や、とらえ方だと思います。特に常識化している事柄についてまず疑ってみることは、何度も先生から言われましたね。今回の茶会においては、400年以上続く茶道を扱っていますから、形式化され、常識になっていることがとても多い世界です。その一つを新鮮な目で疑っている。そして新しい形につくり上げていくというのは、まさに大学で学んだことが生かされていると思います。

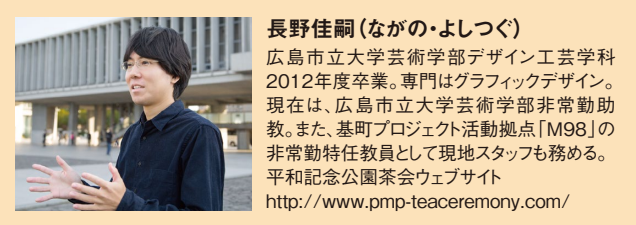
一最後に後輩へメッセージをお願いします。

やりたいと思った気持ちを大切に、あまり深く考え過ぎず、まずは行動し始めることが大切だと思います。

(※1)広島市立大学出身で金属造形作家の原田武蔵に依頼。

(※2)マツダのグローバルデザイナーとして、国内外全車種のデザイン指揮を取っているカーデザイナー。

(※3)近作に、根津美術館、歌舞伎座、蒲生サン芸術文化センターがあり、現在16カ国で多数のプロジェクトに携わる建築家、東京大学教授。



長野佳嗣(ながの よしつぐ)
広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科2012年度卒業。専門はグラフィックデザイン。現在は、広島市立大学芸術学部非常勤助教。また、基町プロジェクト活動拠点(M98)の非常勤特任教員として現地スタッフも務める。平和記念公園茶会ウェブサイト
http://www.pmp-teaceremony.com/

west breeze

学生レポート

子どもたちと笑顔でひと夏の思い出づくり

国際学部国際学科1年 **瀬川 みなみ**

夏の暑さが残る8月29日(土)、「ハーモニー」をテーマとして、旧広島市民球場跡地で「キッズキャンパス2015」が開かれました。「キッズキャンパス」は、広島日野自動車株式会社との助成を受けて開催している幼児・児童向けの公開講座で、芸術学部の教員と学生を中心にプログラム内容を考案しています。今回は、子どもたちとその保護者、合わせて約200人が7色のプラスチック製ダンボールに絵を描いたり、切り抜きしたりした作品を並べて、直径が60センチもある巨大な花冠形の立体造形作品の共同制作に挑戦しました。

子どもたちは絵の具やクレパスなどを使って、筆や手足で自然や動物など思い思いの絵を描いていました。学生たちも子どもたちの感性を否定することなく、一緒に制作をしたり、絵を褒めたりと子どもたちが楽しんで絵を描けるような雰囲気を作っていました。

学生たちは、子どもたちにも分かりやすいような口調で説明するように心がけたり、動物の絵の見本となる図鑑をいくつも用意したり、子どもが扱いにくいカッターが必要な場合には代わりに穴を開けてあげたりと、子どもたちの制作を手伝っていました。参加した学生は「子どもたち独特の感性に触れることができ新鮮だった」と満足そうでした。

開催場所は、昨年度までの市立大学のキャンパスではなく旧市民球場跡地で、規模も企画内容も異なり不安やプレッシャーがある中で、何度もミーティングを重ねて、子どもたちに喜んでもらえるようにと当日まで精一杯準備してきた学生たち。そんな大変な中でも笑顔で子どもたちの目線やベースに合わせて、丁寧に接する学生たちに温かさを感じました。子どもたちだけでなく、学生たちにとっても、ひと夏の思い出づくりに素敵な機会となったようです。



旧市民球場跡地上空から撮影した様子

留学体験記

本学では、2年生以上の学生を対象に、海外の大学または研修機関での語学研修に対して、旅費や研修費用等を補助する海外語学研修補助事業を実施しています。毎年、学内公募で選考された学生が、夏季休業期間中または学年末休業期間中の1カ月程度、この制度を利用してさまざまな国へ留学しています。

英語は自分の視野を広げてくれる

国際学部国際学科2年 **小林 友香**

私は夏季休業中の1カ月間、オーストラリアのプリズベンに行きました。語学学校ではレベルごとの少人数授業が行われ、いろいろな国から学生が集まっていました。クラスにはさまざまな年齢、国籍の学生がいて、アットホームな雰囲気です授業を受けることができました。

授業では、異なる国籍の人とペアを組んで課題に取り組み込み、あるテーマについてグループで議論したりしました。さらに私のクラスでは辞書の使用禁止が徹底され、分からないことはその場で先生に聞くというルールがあり、疑問はすぐに解決できました。このように英語を話す機会が多くあったため、自分の伝えたいことを英語で伝える力をつけることができました。

私が今回の語学研修で強く感じたのは、英語は自分の視野を広げてくれるものだ、ということです。英語を学ぶことで、さまざまな国の人と交流でき、多様な考え方や文化に触れることができました。英語で自分の伝えたいことをうまく伝えることができなかったり、相手の言っていることを理解できなかったり、悔しさを感じることも多くありました。しかしこの悔しさが英語を勉強するモチベーションにつながっていききました。

私にとってこの1カ月間は、初めてのことでしかけました。しかし、知らないものや出会った人も何度も経験し、自分を成長させることができました。これからも英語を勉強し続け、多くの人とコミュニケーションをとりたいと思います。



2列目右から2番目が小林さん

留学生活は発見の連続

国際学部国際学科3年 **三木 知里**

私は3週間、カナダのオンタリオ州トロントに行ってきました。語学学校では、レベル別に少人数クラスが編成されており、アットホームな雰囲気です授業を受けられました。また、イングリッシュ・オンリーポリシーを掲げる学校だったため、常に英語を話す努力を続けられたことが良かったです。私のクラスは国籍も豊かで、多くの友人ができました。友人たちとナイアガラの滝や有名な観光地などを巡り、帰国前日の私の誕生日には、サプライズパーティーまで開いてもらえました。学校の先生やホストファミリーは、私が使っていた英語表現が間違っている指摘してくれたり、街を歩いているだけでも、そこら中に英語が表記されていて「あ、これ、こう表現されるんだ」と初めて留学生活は発見の連続で、とても勉強になりました。

海外の友達できたことで、以前より英語を頑張ろうという気持ちが強くなり、勉強のモチベーションも上がりました。これからも将来のために、しっかりと英語を勉強していくつもりです。

今回、このような素晴らしい体験ができるよう援助してくださった大学には、本当に感謝しています。



2列目右端が三木さん

west breeze

事例でみる市大の地域貢献

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、広島市の公立大学として、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。ここでは、本学の地域貢献活動の事例の一部を紹介します。

キッズキャンパス



広島日野自動車株式会社の協賛で、幼児・児童を対象とした公開講座を2005年から開催しています。子どもたちの創造性の育成と、彼らを取り巻く環境をより良いものすることを目標に、芸術学部の教員と学生がプログラムの運営と指導に当たっています。11年目を迎える今年度は、「ハーモニー」をテーマに旧市民球場跡地で開催しました。会場の大きさを生かし、参加した幼児・児童が作成した一つ一つの絵画が集まって大きな一つの花となる作品を制作しました(表紙および「学生レポート」参照)。

ひろしまドリミネーション

本学芸術学部では、昨年度に引き続き「平和への想いを発信するイルミネーション企画」として「ひろしまドリミネーション」の一部のデザインを行いました。同学部デザイン工芸学科立体造形分野の学生にアイデアを募り、学内でコンペを行った結果、松葉亮佑さん(2年)が平和大橋・西平和大橋の基本コンセプトから着想した「月の門」と「太陽の門」のデザイン案が採用されました。この作品は、来年1月3日(日)まで開催される「ひろしまドリミネーション2015」で、NHK広島放送局前とホテルサンルート広島ホテルの区画にて展示されます。



ライン)の発給式が、アストラムライン本通駅で行われました。

■情報科学研究科の学生が広島観光親善大使に就任

2015年7月、情報科学研究科情報工学科3年の坂田奈々さんが、広島市の観光や魅力を国内外に向け発信する「2015広島観光親善大使」に就任しました。

■南アフリカ公使とウガンダ大使が本学を訪問

2015年8月、平和記念式典参列のために広島を訪れていた、南アフリカ共和国駐日全権公使のドリーン・ンジセロム・ベレ氏とウガンダ共和国特命全権大使のベディ・グレース・アケチー・オクワ氏が、本学を訪問しました。

■国際学部の学生が「ピースナイター2015」に協力

2015年8月6日、国際学部2年の信末航さんと同3年の三木知里さんが、マツダスタジアムで開催された「ピースナイター2015」に、「どらう流し」で協力しました。広島東洋カープと阪神タイガース両チームの監督・コーチ・選手が平和へのメッセージを書いたどらうを、試合前に行われた「どらう流し委任式」にて、両チームの代表者から信末さんと三木さんが預かり、委任式終了後、「どらう流し実行委員会」(広島祭委員会、広島市中央部商店街振興組合連合会)が主催しての元安川のどらう流し会場でどらうを流しました。



委任式

■カープアカデミー・インターンシップ参加報告会を実施

2015年10月、広島東洋カープ企業インターンシップに参加した酒井康甫さん(国際学部3年)による報告会を開催しました。酒井さんは、2月から7月まで(うち約1カ月は国内での事前研修)、ドミニカ共和国のカープアカデミーで日本語教育や情報紙作成などに従事しました。また、「ドミニカ共和国における野球調査」という研究テーマで、ドミニカにおける野球コミッショナーからヒアリング(インタビュー)等を行いました。

この本 ～教員の著書紹介～

国際学部 榊本伸之 准教授
『ハット制フットシマタ後の世界へーヒロシマを想起する思考』
2015年7月、インパルス出版会
広島平和研究所 吉川元 所長
『国際平和とは何かー人間の安全を脅かす平和秩序の逆襲』
2015年8月、中央公論新社

教員の人事異動

区分	氏名	職名
退任	高橋 博子	広島平和研究所講師(9月30日付け)
退職	柳 幸典	芸術学部准教授(10月31日付け)

「W.B.」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学 企画・広報委員会
○E-mail: kikkaku@office.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel: 082-830-1666 ○Fax: 082-830-1656
「W.B.(WEST BREEZE)」のバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌「WEST BREEZE)」に掲載しています。

広報誌名

広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」(「WEST BREEZE」の略称)は、広島市立大学のある西風新都になんで命名されました。

編集・発行／広島市立大学 企画・広報委員会
発行日／2015年12月1日